【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【公開番号】特開2009-75525(P2009-75525A)
【公開日】平成21年4月9日(2009.4.9)
【年通号数】公開・登録公報2009-014
【出願番号】特願2007-271807(P2007-271807)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｂ　7/02　(2006.01)
Ｇ０９Ｂ　19/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｂ　7/02
Ｇ０９Ｂ　19/06

【手続補正書】
【提出日】平成21年5月11日(2009.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
出題内容の英単語等を表示し、振りガナ付きのまたは付きでないその和訳語等の日本語、及びその日本語のローマ字綴の終字のａ、ｉ、ｕ、ｅ、ｏ、ｎのいずれか１字、またはこれらを記号化して数字、カナ、かな等に変えた１字を表示せず保存し、初期の設定によりその日本語の初字をカナ等で予め表示しまたは表示しないで、その終字をキーで回答し、保存した終１字と一致するか否か判定し、一致した場合は上記の和訳語等の日本語を表示し、一致しない場合は、初期の設定により再回答を求めて判定しまたは求めず、初期の設定によりその日本語を表示しまたは表示しない学習システム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
第１は、選択肢が不要で記述式と同等の思考力を要するが、ワンタッチで簡便に日本語の回答ができること。第２は、英単語の多義語の場合等複数の日本語の正解がありうる場合に対応でき、英和辞典と同じ形式で出題内容を作成できること。第３は、英語をかなり習得しているアジアの人達等が、英語から日本語を学習できること。
なお、以下においては、主として、日本語のローマ字綴の終１字をａ，ｉ，ｕ，ｅ，ｏ，ｎのいずれかで回答し、また日本語の初字をカタカナ等で予め表示する場合の例により説明するが、終１字を他に変えた場合の簡単な例は、これらをそれぞれ１，２，３，４，５，６に変えた場合である。